

校内研だより



令和4年6月13日(月)
研究推進部
No.7

1 第3回校内研究会（研究授業①）

(1) 日時 6月16日(木) 13:35~16:00

(2) 研究会場 ミーティングルーム

(3) 単元名 6年「縄文のむらから古墳のくにへ」

(4) 当日の進行

13:35 研究授業 ミーティングルーム 授業者 大樂 美保子 主任教諭

授業記録（全体） : (分科会)

授業記録（抽出児） : (分科会)、(分科会)

カメラ記録 : 笠原

14:40 研究協議会 司会: 永山 協議会記録: (分科会)

- ・挨拶、講師紹介: 校長
- ・分科会提案: 高瀬
- ・自評: 大樂
- ・協議

ジャムボードを使いながら、それぞれに出た視点ごとに協議をお願いします。

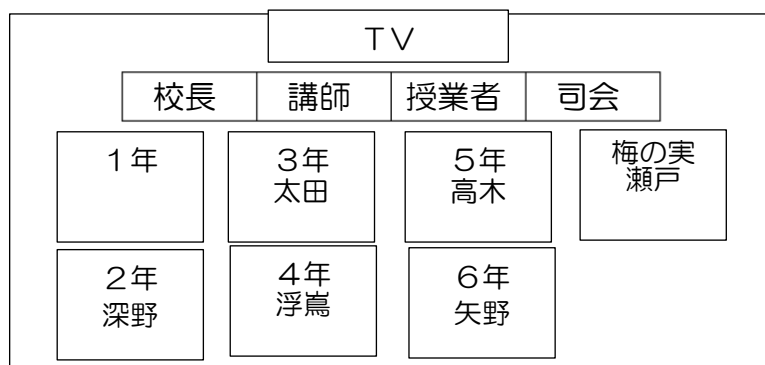
良かった点、課題・改善点、疑問点、質問など

15:20 指導講評

講師 吉村 潔先生 (元・全国小学校社会科研究協議会会長、東京女子体育大学教授)

16:00 謝辞 副校長

(5) 会場図 ※協議会は、児童の机で行う。



校外からの参観者には、
各グループに入っていた
できます。

- ・事前学習によって歴史を身近に感じることができていたか。
- ・教材（特に等尺年表）の提示は効果的であったか。
- ・児童の振り返りは、次時の学習問題づくりへつながっていたか。

☆歴史の導入、どれだけ自分と近付けてスタートできるかチャレンジです！

2 その他

☆振り返りについて学年で話してみてください。

☆ 16日(木) 研究授業（6年1組） 研究だより⑦

☆ 20日(月) 校内研指導案検討（梅の実）

3 指導案

第6学年 社会科学習指導案

日時 令和4年6月16日(木)
(5校時 13:35~14:20)
対象 6年1組 33名
授業者 大楽 美保子
場所 アリーナ2階 ミーティングルーム

1 小単元名 「縄文のむらから古墳のくにへ」(全8時間)

2 小単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子に着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめ、狩猟・採集の生活や農耕が始まった頃の生活の様子、古墳の出現、大和朝廷の支配の広がりを捉え、世の中の様子の変化を考え、表現することを通して、むらからくにへと変化したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、我が国の歴史について関心をもって学んでいこうとする態度を養う。

3 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、必要な情報を読み取り、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子を理解している。 ② 調べたことを年表や文章などにまとめ、世の中の様子がむらからくにへと変化したことを理解している。	① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見出し、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子について考え、表現している。 ② 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子を比較し、関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子の変化を考え、適切に表現している。	① 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② 学習したことを基に、歴史と自分たちの生活とのつながりに目を向け、これから学ぶ歴史の学習に関心をもっている。

4 本小単元で目指す「社会とつながり未来を創る子供」の姿

歴史を本格的に学び始めるための、「つかむ」段階の1時間目として設定した本時では、日本人のルーツに着目し、縄文時代の人々の生活や世の中の様子について、目を向けさせる活動を行う。縄文時代が1万年以上続いたということ、等尺年表を用いて視覚的に捉えさせ、どうしてそんなにも長い期間続いたのか、予想を話し合う。また、現在と同じ点や違う点に着目させ、「争いごとがなかったからかな。」「みんな、平等だったのではないか。」といった、対話的な活動を通して、歴史を自分事として捉えられるようにする。

さらに、本小単元の「つなぐ」段階では、学習したことを基に、歴史と自分たちの生活とのつながりに目を向け、これから学ぶ歴史の学習について考える時間を設定した。それにより、自分たちの生活とのつながりに目を向け、歴史を学ぶ意義を感じ、歴史を未来につないでいこう、という意欲をもった子供の育成を目指す。

5 教材について

子供にとって縄文時代や弥生時代は、はるか昔のことである。歴史の学習を始めるにあたって、自分たちとのつながりを意識して学習に臨む子供は、ほとんどいないことが予想される。そこで、小単元の導入では、小金井市で縄文時代を含め、様々な遺跡が発掘されていることを捉えさせる。遺跡の写真や発掘された出土品などを実際に見たり、学芸員の話の聞いたりすることにより、縄文時代を生きた人々が、自分たちの暮らす小金井市にもいたということを実感し、歴史をより身近に捉えることができるように工夫した。

また、現在の自分たちのくらしは、歴史とつながっていることを実感させていくために、「日本人のルーツ」や「縄文時代の女性が身に付けていた装飾品や衣服」を教材として用いることとした。自分たちの起源を知り、大昔の人々が、現代の女性と同じように装飾品を身に付けていたことを捉えることで、子供は過去と現在とのつながりを実感できるのではないかと考えた。

6 都小社研の研究内容との関連

(1) 主体的に問いを追究する学習問題の工夫

本小単元では、縄文時代のむらの様子と古墳をつくっている様子の2枚のイラストを比較し、「何が変わったのか。」「どのような社会になったのか。」という視点で情報を読み取り、変化のきっかけや理由に目を向け、「この間に何が起こったのだろう。」という素朴な疑問について、予想などを話し合わせる。それによって、「どのようなことがあって、どのように変わっていったのだろう。」という学習問題に子供の問題意識を焦点化させることとした。また、学習計画を立てる際に、問いだけでなく、調べる方法、手段についても子供と共に決めていく。これまでの学習の積み重ねを生かして、調べたことを表現するツールや調べる資料の見通しを、子供一人一人が立てられるようにする。

(2) 社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫

「つかむ」段階では、狩猟・採集や農耕の生活、古墳づくりを手掛かりに学習を進めることにより、絵資料の読み取りや年表資料からの話し合いを丁寧に行い、世の中の著しい変化の様子について実感的に理解できるようにする。実際に「調べる」段階では、毎時間の学習展開を、見通す、調べる、交流する、振り返る、という流れにして、子供が問題意識に合わせて自らの学習状況を把握しながら調べられるようにする。また、子供が必要な資料を選択できるようにする。さらに、デジタル教科書を活用することで、教科書に掲載されている遺跡を動画で確認するなど、より具体的に大昔の暮らしの様子を捉えさせるように工夫した。「まとめる」段階では、調べたことを時系列に整理し、付箋を使った図をグループごとに作成して話し合いながら、学習問題に対する考えを書くようにする。さらに、「つなぐ」段階では、これからの歴史学習に対して大切にすることを話し合い、自分たちの生活とのつながりに目を向け、これから学ぶ歴史の学習に関心をもつことができるように工夫した。

(3) 子供の学びを確かにする評価の工夫

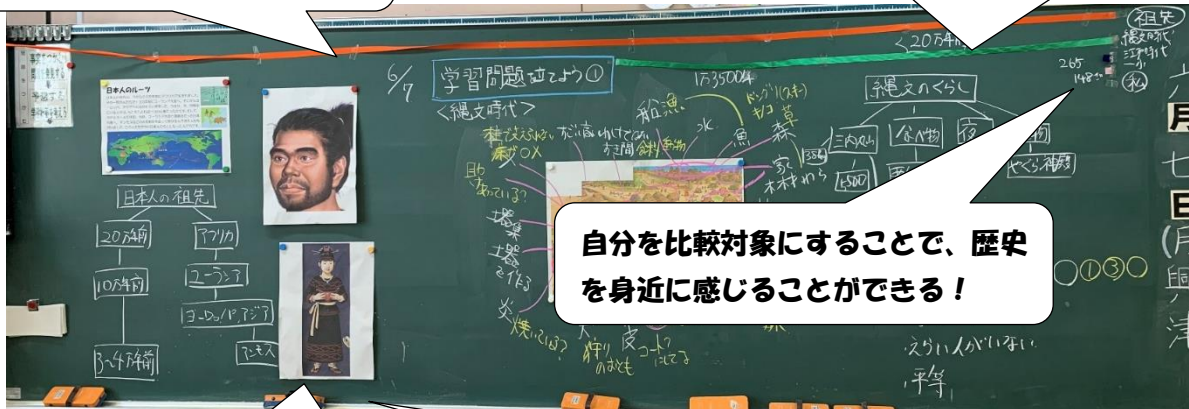
毎時間の振り返りについては、「ふりかえりの問い」をカードにして活用する。その際には、感想ではなく、次の自分の学びにつながる振り返りが書けるように指導する。全ての問いについて毎時間振り返るのではなく、毎時間の学習活動や評価に合わせて、教師と子供で選択しながら振り返りを行う。このことにより、子供は次の時間の見通しをもち、自分の考えを整理することができると思う。

7 本実践の教材のウリ

等尺年表

人類の歴史の長さを視覚的にとらえ、
量感に訴えることができる！！

一小(150年)、江戸時代(265年)と縄文時代を等尺
で比べると、圧倒的に長い⇒「なぜ、縄文時代は、そんなに
長く続いたのだろうか？」⇒疑問につながる！！



自分を比較対象にすることで、歴史
を身近に感じることができる！

縄文時代の女性の服装復元

縄文時代のイメージにダウトをかける
揺さぶりができる資料！！

「縄文時代もおしゃれをしていたんだ！」
⇒自分たちの生活とつなげる気付き！！

8 小単元の構想

位置付け 学習指導要領の	<p>アの(ア)：狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへと変化したことを理解すること。その際、神話・伝承を手掛かりに、国の形成に関する考え方などに関心をもつこと</p> <p>アの(シ)：遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。</p> <p>イの(ア)：世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。</p>
-----------------	---

子供の主体的な問題解決の側面から

社会生活の確かな理解の側面から

想定される主な「問い」

子供に働かせたい
見方・考え方

見方・考え方を
働かせる資料

子供が獲得できるようにしたい知識

<学習問題をつかむ問い>
縄文のむらの人々は、どの
ようなくらしをしていたの

狩猟・採集の生活
を手掛かりに

- ・等尺年表
- ・日本人の起源（文章）
- ・狩りや漁をしていたころの様子（絵資料）
- ・縄文時代の女性の服装

縄文のむらに住む人々は、狩りや漁、採集を行っていた。また、女性が装飾品で着飾るなど、現代と共通する点も多かった。

<学習問題をつかむ問い>
縄文の人々のくらしは、どのよ

古墳
を手掛かりに

- ・縄文時代の様子（絵資料）
- ・古墳時代の様子（絵資料）

狩りや漁をしていたくらしから、大きな変化があった。その間には身分の違いが表れるなど、社会の仕組みが変わってきた。

<学習問題>
縄文から古墳にかけて、どのようなことがあって、変わっていったのだろう。

<調べる問い>
米づくりが始まり、人々のくらしはどのように変わったのだろう。

農耕の生活
を手掛かりに

- ・米づくりのむらの想像図や写真

米づくりが始まって、人々は集まって定住し、共同で作業を行うようになった。

米づくりが広がり、むらの様子はどのように変わったのだろう。

古墳
を手掛かりに

- ・吉野ケ里遺跡の様子や出土品の写真
- ・卑弥呼の記述

むらに人々をまとめる指導者が現れ、力の強いむらが他のむらに従えるようになり、やがて各地に小さくなくにつくられた。

古墳は何のために、どのようにして作られたのだろう。

大和朝廷の統一の様子
を手掛かりに

- ・古墳を築く様子（絵資料）
- ・渡来人の活躍（文章）

大きな富や力をもつ豪族たちが、大陸の進んだ技術を用いて、古墳を建造した。

大和朝廷によって、国土はどのように統一されていったのだろう。

世の中の様子や文化遺産など
に着目して

- ・大仙古墳
- ・全国の古墳の分布図
- ・神話（古事記と日本書紀）

各地で強い勢力をもつ豪族が現れ、これらの豪族たちが連合して、大和朝廷をつくり、大王の支配が広い範囲に及ぶようになった。

<特色や意味を考える問い>
三つの時代にはどのような特徴があり、どのように変わっていったのだろう。

調べた事象を
関連付けて、
歴史の
展開を考えて

狩猟・採集の時代から、稲作が伝わって農耕の生活となり、人々の生活や社会の様子は変化した。むらはくにへと発展し、各地に大きな力をもつ王や豪族が現れた。やがて、大和朝廷が九州から関東を従えていった。

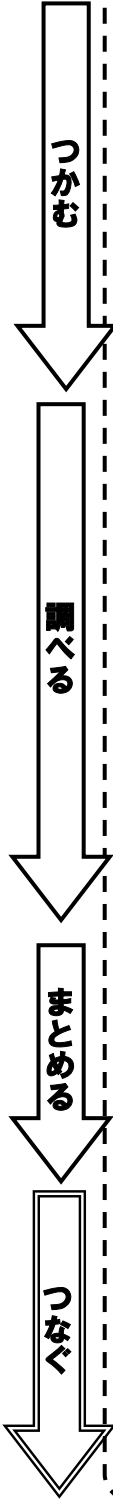
<社会に見られる課題をつかむ問い>
今後、私たちは何を大切に
して、歴史の学習を進めていけばよいのだろう。

歴史を学ぶ意味
を考えて

- ・これまでの資料
- ・情報分析チャート

くらし、きまり、外国とのかかわりなどを調べ、自分とのつながりや当時の人々の思いを考え、自分にできることや生かせることを話し合うことが大切だ。

<社会に見られる課題をつかむ問い>
なぜ、私たちは歴史を学ぶの
だろう。



9 小単元の指導計画（オリエンテーション1時間・8時間扱い）

過程	ねらい	主な学習活動（○）評価につながる学習活動（●） 問い、本時の課題（◆） 予想される子供の反応（・）	◎資料 【評価】 □指導上の留意点
オリエンテーション	地域の遺跡や保存活動について聞き取り調査をして調べ、地域に残された遺跡や文化財の意味について考え、これからの歴史の学習に関心をもつ。	<p>○縄文・弥生時代の小金井市の様子について調べる。</p> <p>◆私たちの地域は、どのように大昔とつながっているのだろう。</p> <p>○学芸員の方の話を聞き、疑問に思ったことを質問する。</p> <p>○学芸員の方の話を基に、自分たちの住んでいる地域と大昔とのつながりについて考えたこと話し合う。</p> <p>「縄文時代や弥生時代は大昔のことだが、今も自分たちが住んでいる小金井市にたくさん出土品が残っているし、残そうとしている人々がいる。自分たちのくらしのスタートとなったことを大切にしながら、これからの歴史の学習を進めていきたい。」</p>	<p>◎小金井市内の出土場所を示した地図</p> <p>◎縄文土器</p> <p>□学芸員の方の話から、大昔のくらしが身近にもあることを実感させる。</p> <p>□史跡や出土品を保存する目的や歴史を学ぶ意義について、学芸員の方に話してもらおう。</p> <p>□歴史単元の導入であることを伝える。</p> <p>【態度①】ノートの記述から、「狩猟・採集や農耕の生活について関心をもっているか。」について評価する。</p>
	日本人の起源や縄文時代が1万年以上続いたことを調べ、縄文時代の人々の生活や世の中の様子について考え、理解する。① <本時>	<p>◆日本人は、いつどこからきたのだろう。</p> <p>○等尺年表や文章資料を基に、日本人の起源を確かめる。</p> <p>◆縄文のむらの人々は、どのようなくらしをしていたのだろう。</p> <p>○縄文時代の人々の衣食住を調べ、現代と似ているところや違うところを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具を見ると、狩りや漁の道具も自分で作っている。 ・家を見ると、人が住む家と違う建物がある。 ・みんなが協力して、家を建て、土器を作っている。 <p>●分かったことや、考えたことをノートにまとめる。</p> <p>「縄文のむらに住む人々は、狩りや漁、採集を行ってくらししていた。また、女性が装飾品で着飾るなど、現代と共通する点も多かった。」</p>	<p>◎等尺年表</p> <p>◎日本人の起源(文章資料)</p> <p>◎狩りや漁をしていたころの様子</p> <p>◎縄文時代の女性の服装</p> <p>□文化財センターから貸りた縄文土器などの教材を提示する。</p> <p>【知技①】ノートなどの記述から「地図帳や各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、狩りや漁、採集をしてくらししていたことを理解しているか。」を評価する。</p>
つかむ	2枚の想像図の比較から分かったことや疑問を分類、整理し、人々のくらしや社会の様子の変化について学習問題をつくとともに、年表を基に予想を話し合い、学習計画を立てる。②	<p>◆縄文の人々のくらしは、どのように変わったのだろう。</p> <p>○縄文時代、古墳時代の2枚の想像図を読み取ることを通して、人々のくらしの変化について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古墳づくりにたくさんの人が働いている。 ・見張りや指示する人がいて、身分の差が生まれている。 <p>○社会の変化のきっかけについて話し合い、学習問題をつくる。</p> <p style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">縄文から古墳にかけて、どのようなことがあって、変わっていったのだろう。</p> <p>○年表を基に予想を立て、調べることを学習計画として整理する。</p> <p>学習計画 ①米つくり ②むらからくに ③古墳づくり ④大和朝廷</p> <p>●調べる順番を考え、表現する。</p>	<p>◎縄文時代の様子(想像図)</p> <p>◎古墳づくりの様子(想像図)</p> <p>□時間の経過と生活の変化から、学習問題をつくるようにする。</p> <p>【思・判・表①】ノートの記述から、「縄文時代から古墳時代への社会の変化について問いを見出し、予想を立て、調べる順番を決め、その理由についても記述するようにする。」について評価する。</p> <p>□調べる順序を決め、その理由についても記述するようにする。</p>
調べる	農耕による人々のくらしの変化を調べる。③	<p>◆米つくりがはじまり、人々のくらしはどのように変わったのだろう。</p> <p>○米づくりの様子の想像図や写真から、この時代の米づくりの方法や作業の特徴を捉え、米づくりによってどのようにくらしが変わったのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ではできないから協力して取り組んだ。 ・道具が縄文時代より進化したから、より便利になった。 <p>●調べて分かったことや、そこから考えたことを振り返り、ノートにまとめる。</p> <p>「米づくりが始まって、人々は集まって定住し、共同で作業を行うようになった。」</p>	<p>◎米づくりのむらの想像図や写真</p> <p>□社会の変化のきっかけは何かという視点を、子供に意識させるようにする。</p> <p>【知・技①】ノートなどの記述から「農耕による生活の変化について理解しているか。」を評価する。</p>

調べる	<p>むらからくへと変化していく社会の動きを調べる。 ④</p>	<p>◆米づくりが広がり、むらの様子はどのように変わったのだろう。 ○吉野ヶ里遺跡や出土物、邪馬台国などから、むらからくへと移り変わった様子について調べる。 ・田や用水、鉄の道具などをめぐって争いが起きた。 ・より強いむらが他のむらを支配することで、大きなくへと変わっていった。 ●調べて分かったことや、そこから考えたことを振り返り、ノートにまとめる。</p> <p>むらには人々をまとめる指導者が現れ、力の強いむらが他のむらを従えるようになり、やがて各地に小さくなくにつくられた。</p>	<p>◎吉野ヶ里遺跡の様子や出土品（写真） ◎卑弥呼の記述 □資料を活用して、遺跡や出土品に着目して調べられるようにする。 ★社会の仕組みの変化に着目できるようにする。 【知・技①】ノートなどの記述から、「米づくりがさかんになったことで、人々のくらしや社会の様子が変化していったことを理解しているか。」を評価する。</p>
	<p>大規模な事業を短期間で行える豪族の権力の大きさについて調べる。 ⑤</p>	<p>◆古墳は何のために、どのようにしてつくられたのだろう。 ○大勢の人や大量の物資、高度な技術が必要であることをつかみ、豪族の力の大きさや大陸から伝わった技術について調べる。 ・15年以上かけ、680万人の人が関わって作られた。 ・様々な埴輪が作られ、石室の中にも様々なものがあった。 ・むらをまとめて大きな権力をもつ豪族が、各地に現れた。 ●調べて分かったことや、そこから考えたことを振り返り、ノートにまとめる。</p> <p>大きな富や力をもつ豪族たちが、大陸の進んだ技術を用いて古墳を建造させた。</p>	<p>◎古墳を築く様子（想像図） ◎渡来人の活躍（文書資料） □大規模な作業が、組織的に行われたことに着目して調べさせる。 ★高度な技術や大きな権力の存在を捉えることができるようにする。 【知・技①】ノートの記述から「豪族の権力の大きさや、大陸とのつながりについて理解しているか。」を評価する。</p>
	<p>大和朝廷の支配が広まっていったことについて調べる。 ⑥</p>	<p>◆大和朝廷によって、国土はどのように統一されていったのだろう。 ○朝廷の支配の広がりや、朝廷と各地の豪族との関係について調べる。 ・巨大な前方後円墳が、奈良県や大阪府に数多く見られる。 ・大和朝廷は、関東にも影響を及ぼしていた。 ●調べて分かったことや、そこから考えたことを振り返り、ノートにまとめる。</p> <p>各地で強い勢力をもつ豪族が現れ、これらの豪族たちが連合して大和朝廷をつくり、大王の支配が広い範囲におよぶようになった。</p>	<p>◎大仙（仁徳陵）古墳 ◎全国の古墳の分布図 ◎神話（古事記と日本書紀） □ヤマトタケルノミコトの話（神話）を紹介し、関心をもたせる。 【知・技①】ノートの記述から、「大和朝廷の支配が広まったことを理解しているか。」を評価する。</p>
まとめる	<p>これまで学習してきた社会の変化を図に整理し、学習問題について自分の考えをまとめる。 ⑦</p>	<p>◆3つの時代にはどのような特徴があり、どのように変わっていったのだろう。 ○調べてきたことを基に、図にまとめる。 ●学習問題に対する自分の考えを書く。</p> <p>○振り返りを書く。</p> <p>狩猟・採集の生活から、稲作が伝わり農耕の生活となり、人々の生活や社会の様子は変化した。むらはくへと発展し、各地に大きな力をもつ王や豪族が現れた。やがて、大和朝廷が九州から関東を従えていった。</p>	<p>◎これまで学習したノートや資料 □それぞれの時代の特徴を時系列に整理する。 【思・判・表②】ノートの記述から、「3つの時代を比較して特徴を考えたり、米づくりの広まりと人々のくらしや社会の変化を関連付けて考えたりして、表現しているか。」を評価する。 【知・技②】ノートなどの記述から、「米づくりの広まりとともにくらしや人々の関係が変化し、やがて、大和朝廷の支配が広まったことを理解しているか。」を評価する。</p>
つなぐ	<p>学習したことを基に、歴史と自分たちの生活とのつながりに目を向け、これから学ぶ歴史の学習について考える。 ⑧</p>	<p>◆今後、私たちは何を大切にして、歴史の学習を進めたいか。 ○問題解決に向けて大切な要素を考え、話し合う。 (調べること：外国とのかかわり、くらし、きまり、あったこと) (考えること：自分とのつながり、当時の人の考え) (生活に生かすこと：できること、気を付けること) ◆なぜ、私たちは歴史を学ぶのだろう。 ●学習したことを振り返り、意見文としてまとめる。</p> <p>大昔のくらしでさえ、私たちの生活とつながっていた。私は、政治の学習で学んだ国の仕組みに注目しながら、今後学習を進めようと思う。そして、歴史の学習が終わる時に、なぜ歴史を学ぶのか、という問いに対して答えられるようにする。</p>	<p>◎これまでの資料 □ワールドカフェ方式を取り、情報分析チャートを使って、考えを視覚化できるようにする。 【態度②】ノートなどの記述から、「学習したことを基に、歴史と自分たちの生活とのつながりに目を向け、これから学ぶ歴史の学習に関心をもとうとしているか。」を評価する。</p>

10 本時の学習（1/8時間）

（1）本時のねらい

日本人の起源や縄文時代が1万年以上続いたことを調べ、縄文時代の人々の生活や世の中の様子について考え、理解する。

（2）本時の展開

	○主な学習活動 ・ 子供の予想される反応	◎資料 【評価】 □教師の手立て
つかむ	<p>○日本人の起源について、想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本には、1万年以上前の氷河期の頃から人がいたんだよね。 ・日本人のルーツは、20万年前のアフリカだったね。 <p>○等尺年表を基に、歴史の長さについての興味を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんなに長い。自分たちの生きてきた時間は一瞬だね。 ・どれくらい昔なのだろう。 <p>○女性の服装の想像図を基に、考えを広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクセサリも身に付けて、おしゃれだったんだ。 ・当時、どんなくらしをしていたのかな。 <p style="text-align: center;">学習問題をつくろう。</p>	<p>□オリエンテーション時の学芸員の方の話（日本人の起源、縄文時代の服装等について）を押さえる。</p> <p>◎等尺年表</p> <p>□等尺年表を提示し、視覚的に長さを捉えられるようにする。</p> <p>◎縄文時代の女性の服装</p> <p>◎縄文時代の耳飾り（現物）</p>
しる	<p>○縄文時代の絵資料や動画を基に、縄文時代の人々の衣食住を調べ、分かったことを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具を見ると、狩りや漁の道具も自分で作っているね。 ・家を見ると、人が住む家と違う建物があるよ。 ・みんなが協力して、家を建て、土器を作っている。 ・おしゃれもしているし、家も建てて住んでいるし、今と似ているところもあるね。 <p>○等尺年表から、縄文時代はなぜ長く続いたのか話し合い、予想を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・争いがあまりなく、みんなが平等で、平和だったのかな。 ・狩りや漁をしたり、木の実を食べたりして、生活が安定していたからかな。 	<p>◎縄文時代の様子（想像図）</p> <p>◎動画 NHK for School「三内丸山のくらし」</p> <p>□文化財センターから貸りた縄文土器などの教材を提示する。</p> <p>□子供の発言が、想像図のどの点を指しているか、確認する。</p> <p>□縄文時代を表す等尺年表を提示し、他の時代の長さと比較できるようにする。</p>
まとめる	<p>○本時の振り返りをして、自分の考えをまとめ、次時につなげる。</p> <p>振り返りの問い</p> <p style="text-align: center;">①分かったか ③何を考えたか ⑤どうしたかったか</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">縄文のむらに住む人々は、狩りや漁、採集を行ってくらしていた。また、女性が装飾品で着飾るなど、現代と共通する点多かった。</p>	<p>【知技①】ノートなどの記述から「地図帳や各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、狩りや漁、採集をしてくらしていたことを理解しているか。」を評価する。</p>

（3）板書計画

